

長崎外国語大学 Diploma Policy のお知らせ

2010(平成 22)年度、文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」において、本学の取り組みが採択されました。本学は、今後育成しようとしている「人間力=就業力」資質を、以下の Diploma Policy(以下 DP)としてまとめましたので、皆さんに紹介いたします。

カテゴリ A [理解し、知識を取り込む力]

- DP A-1 [歴史・社会・自然を自らと関連付けて理解し、説明することができる。]
- DP A-2 [専門分野に於ける知識を体系的に理解し、実践に応用することができる。]
- DP A-3 [進路の多様性や特質について理解し、自らの進路選択に効果的に活用することができる。]

カテゴリ B [論理的思考力・問題解決力]

- DP B-1 [情報や知識を多角的な視点から論理的に分析し表現できる。]
- DP B-2 [論理的思考に基づき、さまざまな状況に応じた確かな判断を下すことができる。]
- DP B-3 [問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を解決に導くことができる。]

カテゴリ C [態度・意欲]

- DP C-1 [自らを律し、自立して積極的に行動できる。]
- DP C-2 [異なる文化に対して、深い認識と共感を持って接することができる。]
- DP C-3 [社会の一員としての意識を持ち、社会の発展のために積極的に関与できる。]

カテゴリ D [コラボレーションとリーダーシップ]

- DP D-1 [目標達成のために他者と協調・協働して行動できる。]
- DP D-2 [目標達成のために他者に方向性を示し、協力を得ることができる。]

カテゴリ E [効果的なコミュニケーション力]

- DP E-1 [日本語で正確に意志の疎通を図ることができる。また、論理的に記述し、的確に発表し、討議を行うことができる。]
- DP E-2 [少なくとも一つの外国語を用い、正確にコミュニケーションを図ることができる。]
- DP E-3 [情報通信技術を用いて多様な情報を収集・分析し、効果的に活用することができる。]

DP は 2012 年度以降に、皆さんの成績評価の新しい観点として用いられます。

皆さんの本学での勉学の成績が、皆さん自身の人間的資質の向上の結果として評価されます。本学のこの新しい取り組みを楽しみにしてください。

各行動目標到達度の段階的評価表

※評価内容は変更の可能性があります。

段階 DP	0	1	2	3	4
A-1	自分の学習内容が持つ意味を理解できず、それに対する指示も理解できない。	授業には参加するが、自分の学習内容が持つ意味を理解できない。	自分の学習内容が持つ意味を理解し、授業に参加し、課題を提出できる。	自分の学習内容が持つ意味を理解し、授業の準備と復習を行うことができる。	自分の学習内容が持つ意味を理解し、授業中に他の範となることができる。
A-2	専門分野における知識を理解せず、応用もできない。	専門分野における知識に乏しく、応用できない。	専門的な知識を持ち、既知の知見に応用することができる。	専門的な知識を持ち、未知の知見に応用することができる。	専門的な知識を持ち、未知の知見に応用し、背景原理を探ることができる。
A-3	進路の多様性を理解せず、自分の進路を決定できない。	進路の多様性を理解はするが、自分の進路を決定できない。	進路の多様性を理解し、自分の適性を見極めることができる。	進路の多様性を理解し、自分の進路を決定できる。	進路の多様性を理解し、自分の進路を複数決定し、取捨選択できる。
B-1	情報や知識を分析できず、なぜできないのか表現もできない。	与えられた方法でならば、情報や知識を分析できるが、表現できない。	与えられた方法でならば、情報や知識を分析し、表現できる。	指示を待たずに、情報や知識を分析し、表現する方法を見つけることができる。	指示を待たずに、情報や知識を分析し、表現する方法を複数見つけることができる。
B-2	論理的な思考も、状況に応じた適切な判断もできない。	論理的ではなく適切でもないが、直観的な思考や判断はできる。	思考に必要な論理を与えられれば、適切な判断ができる。	適切な判断ができるような論理的思考を行うことができる。	複数の論理を適宜組み合わせることで応用し、より適切な判断ができる。
B-3	問題を発見できず、必要な情報を整理できないので、問題を解決できない。	問題を指摘し解法を与えれば、問題を解決できる。	問題を見つけ解決することはできるが、別の問題に応用できない。	ある問題の解法を、別の問題の解法に応用できる。	応用的に様々な問題を解決することができる。
C-1	自分の行動に責任を取ることができない。	行動の責任を恐れ、指示された行動以外何もできない。	制限された責任であれば、自分で行動を計画することができる。	行動に伴う責任を、ある程度査定した行動を計画できる。	何事においても、行動に対する責任を認識した計画を立案できる。
C-2	異文化を理解できない。	異文化が存在することを知っているが、指示がなければ交流できない。	異文化と交流できるが、自文化の立場からしか評価できない。	特定の異文化を理解し、それを意識した交流ができる。	様々な異文化を理解し、それを意識した交流ができる。
C-3	行動が自己中心的で、社会や組織と協調できない。	自己都合を優先するが、指示されれば社会や組織に協力することができる。	自分が社会や組織に属していることを理解し、その規律に従うことができる。	自分が所属している組織の発展に貢献できる。	自分が所属している組織の発展に重要な貢献ができる。
D-1	目標を達成するため、他者と協調・協力できない。	目標を達成するため、他者に協力を求めるが、自分からは協力できない。	目標を達成するため、他者に協力を求め、頼まれれば自らも協力できる。	目標を達成するため、他者に協力を求めるだけでなく、自らも進んで協力することができる。	目標を達成するため、他者に協力を求めるだけでなく、自らも進んで必要十分な協力ができる。
D-2	目的達成のために、リーダーとして他者に何を指示すれば良いのか理解できない。	目的達成のために、他者に指示するが、他者の意見を聞くことができない。	目的達成のために、他者の意見を求めるが、それを反映した指示を出すことができない。	目的達成のために、他者の意見を求め、それを反映した指示を出すことができる。	目的達成のために、他者の意見をくみ上げて、それを反映した最適な指示を出すことができる。
E-1	日本語で正確に意志の疎通ができない。	求められれば、自分の意志を伝えることができる。	積極的ではあるが、論理的かつ効率的に自らの意志を述べることができない。	統一的な意志の決定のために、論理的かつ効率的に意志を表明することができる。	統一的な意志の決定のために、様々な媒体を用いて論理的かつ効率的に意志を表明することができる。
E-2	外国語を用いて意志の疎通ができない。	日常的な定型文しか、外国語を使用することができない。	外国語で会話ができる。	外国語で質問ができる。	外国語で質問をし、自分の問題を解決できる。
E-3	情報機器の使用方法を理解することができない。	使用できる機能に制限があり、与えられた操作以外できない。	取扱説明書を見ながら、必要な機能を使用することができる。	取扱説明書を見ずに、必要十分な機能を引き出すことができる。	複数の情報機器を併用することで、目標の達成に寄与することができる。